

## 聖霊降臨の主日の説教

金 大烈 神父 2011年6月12日(日)

### 《聖霊降臨の祝日 ―神様の愛の息吹を受けて―》

今日は聖霊降臨の大祝日です。今日の福音(ヨハネ 20・19 - 23)は、12人の弟子たちのうち一人を除いた11人が、ユダヤ人を恐れて鍵をかけた家に隠れている場面から物語が始まります。そこへ、イエス様が現れます。そして「あなたがたに平和があるように」とおっしゃいますね。

少し違う話になりますが、心理学に優れたフランスのピエール神父が「この世の中には、自殺を図る人がたくさんいる。その人々は、生き残る勇気、難しさを乗り越える勇気がなくて死を選ぶのではない。愛の欠乏によって死を選ぶのだ。」という話をしたことがあります。

では、『愛の欠乏』とは、どういうことでしょうか。愛をもらえない状態かと思いがちですが、愛をもらえないだけでなく、愛することができない状態のことも『愛の欠乏』と言います。もらいたくてももらえない。あげたくてもどうすれば愛をあげられるか分らない。そういう状態を『愛情の欠乏症』と言うのです。

今日私は最初に、怖くて隠れている弟子たちの話をしました。次に自殺する人々の根本的な原因は、生きる勇気の不足ではなくて、愛が乏しいことだと申しあげました。

有名な聖書の言葉に「信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」(1コリント 13・13)という言葉があります。イエス様が、なぜそのようにおっしゃったのか、その理由を考えてみましょう。

カトリックの福音が、世界に必要なものとして述べ伝えているものには、正義・平和・幸福・平等・癒し・・・などいろいろな美しいものがあります。その、美しくて私たちが求めている全てのものが現実となる方法は、愛を体験することです。愛がもとにならない平和は、あり得ないものです。正義も平等も同じです。だからイエス様は、「愛が一番大切である」とおっしゃったのです。

今日の福音を読んでみますと、イエス様が弟子たちに息を吹きかけながら「聖霊を受けなさい。」と言われましたね。聖霊をどのように理解すればよいのかよく迷いますが、一言でいえば、それは御父の、イエス様の、息吹のようなものです。そしてその息吹は、“愛の息吹である”と言われています。だから、「聖霊を受けなさい」ということは、「愛に満たされなさい。」という意味になります。

たとえば、人のために自分の命を犠牲にすること。これも愛がなければできないことです。そして、皆様が何か乏しさを感じられるとしたら、その一番大きい原因も愛の欠乏でしょう。いろいろな交わりができないのも愛の欠乏です。その愛を「体験しなさい」と言いながらイエス様が聖霊をくださったのが、聖霊降臨の祝日です。ですから、「聖霊を受けなさい」という言葉は、「完璧な神様の愛を体験しなさい」という意味になるのです。聖霊降臨の大祝日は、「まだはっきり分からないあなたの愛を体験できるようにお許しください。」と望むべき日です。

もしその完璧な神様の愛を少しでも体験できれば、私たちが懇切に求めている平和、幸せ、正義、・・・  
そういう全てのものが自分のものになると私は確信します。しかし、私たちは死ぬときまで、完璧な  
神様の愛を体験することはできないかもしれません。ただ、体験できるように導いてください、と願  
うことだけが可能なのかもしれませんが。

四旬節に入る灰の水曜日に、私たちは顔に灰を塗ります。司祭は灰を塗りながら、「塵に戻るのを覚  
えなさい。」と言います。それと似ている言葉が今日の答唱詩篇の二番目(詩篇 104・29+30)にあります。

「あなたがいびきを取り去られると、死が訪れてちりにもどる。」

あなたは霊を送ってすべてを造り、地上を新たにしてください。」

今日の福音でイエス様は、『息を吹きかけながら』“聖霊を受けなさい”とおっしゃっています。『息  
を吹きかける』という言葉聞いた時に思い出すのは、創世記です。神様は、土から人間を造られた  
時に鼻に息を吹きかけ、その時から人間に命が与えられたのです。

さあ、まとめて申し上げます。

聖霊降臨の祝日は、改めて愛の息吹を受ける日です。人間を造られた時に神様が注いでくださった  
その愛の息吹を感じ、今までは駄目だったかもしれないけれど、もう一度改めて新しい命を生きます、  
という覚悟をする日であることを意識してください。

今までのものは全部捨てましょう。間違えたものも全部捨てましょう。これからもう一度立ち上  
りましょう。それが聖霊降臨の一番大きい意味になります。

そして、今日の福音をとおしてもう一つ皆様をお願いしたいことがあります。この世の中には、赦  
したくなくても人を赦さなければならない立場があります。それは司祭たちです。今日の福音の最後  
に、「だれの罪でも、あなたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたが赦さなければ、赦  
されないまま残る。」と書いてありますね。これは、ある意味で司祭たちの十字架かもしれません。同  
じ人間的な感情の世界にしながら、神様が授けた“全ての人を赦し、癒す役目”を持っているのが司  
祭たちです。ですから、先ず司祭たちが先に神様の完璧な愛を体験しなければなりません。神様から  
癒されなければなりません。そして、体験した神様の愛、その平和を、よいことのために使わなくて  
はいけません。そのためには、まず司祭たちが体験しなければいけないのです。

聖霊降臨の祝日に一つのお願いがあります。司祭たちのために絶え間なくお祈りください。

ありがとうございました。